

アゼルバイジャン は正義の回復を信 じている

ムサ・マルジャンリ、
編集長

今年は、アゼルバイジャンと日本（および他の多くの国）との間で外交関係が樹立されてから 30 周年を迎えます。この記念日の機会に、このジャーナルの最新号は、この期間にわたる両国間の関係の発展、さまざまな分野での協力の成果について伝える記事を掲載しています。

発信年は、アゼルバイジャンでシュシの年として正式に宣言されました。この小さな町は 270 年の歴史があります。アゼルバイジャンと世界の科学と文化に非常に多くの優れた名前を与える都市を他に挙げることは困難です。「コーカサスの音楽院」として長い間評判を得てきたシュシャが、アゼルバイジャンの文化首都の正式な地位を獲得し、さらに 2023 年にテュルク世界の文化首都と宣言されたのは偶然ではありません。さらに、シュシャは 2 年前に 28 年以上に及ぶアルメニアの占領から解放され、今日は国と国民の両方の注目の的となっています。占領の影響を克服し、過去の文化的伝統を復活させるための活動がここで進行中です。カラバフの歴史と文化を背景にしたこの都市の過去と現在であるシュシャの現象は、最新号に掲載されているアゼルバイジャン文化大臣アナル・カリモフの記事で詳しく説明されています。

アルメニアとの関係の話題は、アゼルバイジャンの社会政治的議題を支配し続けており、それに応じてこの雑誌のページでも取り上げられています。この号では、カラバフ紛争の起源と歴史を伝える記事を紹介します。さらに、このトピックは、アルメニアの首都での建築記念碑やアンサンブルの破壊の歴史に関連しています。この都市のアゼルバイジャンの過去、そして何よりもエリバンの要塞を証明しています。同じトピックに関連して、アゼルバイジャンのアグダム市に関する記事もあります。これは、27 歳のアルメニア人によるカラバフの占領中に、地球の表面から事実上一掃されました。

新年が明けて間もなく、アゼルバイジャンは 1990 年 1 月の悲劇的な出来事からまた 1 周年を迎えます。旧ソ連政権の軍事侵略は、領土の主張や民族間紛争とともに、19 世紀初頭から続いているアゼルバイジャンに対する地政学的侵略である一連の出来事に当てはまります。この号では、1990 年の「黒い 1 月」が悲劇的であると同時に、アゼルバイジャンの人々の歴史の輝かしいページとして特徴付けられる資料を紹介します。一方、この血なまぐさい行動は、ソ連の崩壊を加速させたただけでした。

歴史は、アゼルバイジャンのカレンダーに多くの喪の日付があることを定めました。しかし、2020 年の戦争での勝利と国の領土保全の回復の後、歴史の悲劇的なページは、正義の勝利への道のりの試練として、やや異なって認識され始めました。今日、アゼルバイジャンは楽観的であり、衝撃と損失は過去のものであり、人々の歴史的記憶の一部に過ぎないと信じています。